

# 新たに導入した植物の生育および開花状況

## バラの開花(1)

在 岡 孝 行

1979年から、内外の植物園とバラ種苗の交換を始め、現在約40種の原種バラを育成中であるが、そのうち中国産のものでバラ園に植栽し、開花を確認した下記の種を記録報告する。

### *R. banksiae* R. Br.

本種及び変種(*lutea*)は、ともに広島バラ会から寄贈をうけたものである。枝は細く先が垂れ下がり、花枝は緑色、成木は茶褐色となり、刺はほとんどない。小葉3~5枚で1個の花序に径2~3cmの八重白色の花が咲き、微香があった。変種の*lutea*は花が八重黄色である。両種とも本園の開花期は5月中旬頃である。両種とも現在1.5mの樹高であるが、枝先が枯れ込み易い他は栽培容易であった。広島でも時たま植栽しているのを見かけるが、日本庭園等の植栽にも向くと思われる。



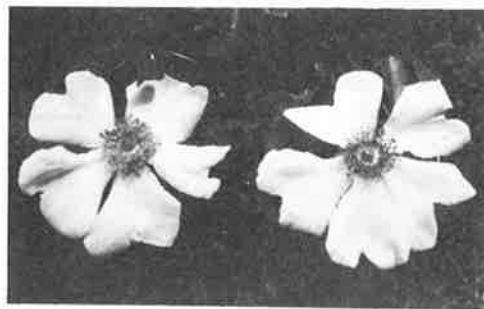
モッコウバラ (*R. banksiae*)

### *R. b. var. normalis* Regel

'79年10月中国雲南省石林にて当園職員が採集し、挿木育成したもので、枝に刺があり、散形花序に直径2~3cmで、一重5弁の白色の花を咲かせた。雄蕊雌蕊とも退化しないで残存する点で、基本種の*banksiae*と異なる。開花期は5月下旬頃で前記2種より樹勢が強く、*banksiae*の野生型と言われている。中部、西部中国原産と思われる。

### *R. bracteata* Wend

80年2月に杭州植物園から種子を導入し播種育成したもの。常緑で茎はよく伸びるが、匍匐状になり易い。枝に綿毛が密にあり、葉柄基部に1対の強い刺がある。小葉5~9枚長楕円形で波状鋸歯があり、先端は丸味を帯びる。表面は濃緑色光沢、裏に密に毛がある。托葉は葉柄に沿って羽状に切れ込む。小枝の先に1個5~6cmの大型の白色花が6月頃から10月頃までの長期間開花した。萼片は開花後反り返り、大きな苞に包み込まれた。雄蕊は多数で約300~400。果実は球形で毛があり径3cmぐらいであった。中国中部以南、台湾、琉球に分布し、カカヤンバラと呼ばれる種である。



カカヤンバラ (*R. bracteata*)

### *R. chinensis* Jacq.

本種及び以下の変種と品種は、'80年京成バラ研究所から穂木の分譲を受け、当園で*R. multiflora*(ノイバラ)に接木を行ったものである。本種は、コウシンバラと呼ばれ、年数回長期間にわたって開花するため、現代四季バラ作出に大きく関与した種である。常緑灌木で株立となり、刺は少ない。小葉は3~5枚で長楕円形で表面は光沢のある緑色、裏は緑白色で毛がない。托葉は非常に細い。中国の原産と言われているが産地不明とされている。

### *R. c. var. mutabilis* Render.

樹形はややコンパクトで葉軸や花枝が赤味を帯びる。花は一重5弁花で、開き始めは硫黄黄色、弁裏オレンジ色だが、淡クリーム黄色からオレンジ赤色となり、最後は赤藤色に変化する。樹勢はあまり強くないが花色の変化が楽しめる。

### *R. c. var. semperflorens* Koehne.

1～1.5 mのやや横張りの樹形で分枝は細くやや弱々しい。小葉は3～5枚でやや卵形で、他に比べると幅が広い。刺はまばらで、若葉は赤味を帯びる。花は径3～5 cmで、その外弁は半剣弁で内側は抱え咲きとなる。スカーレット紅色で花弁数約45枚であった。花房が多く花首が垂れやすいが、四季咲性は強い。



セイカコウシンバラ ( *R. c. var. virdiflora* )

*R. c. var. virdiflora* Dipp

本変種は、広島バラ園から分譲を受けたものである。常緑で1～1.5 m、刺はほとんどない。枝、葉は緑色で赤味がなく、花枝には3段の本葉があり、その上に着蕾する。花弁は変形して緑色で、葉状に変化し、ふちに切れ込みがある。雄雌蕊も退化して苞葉の形をしている。花は長期間咲き続ける。和名はセイカコウシンバラであるが、別名グリーンローズと呼ばれ緑色の花として珍重されている。

*R. c. cv. Major*

枝は1.5 mぐらい伸びる半蔓性で刺は少ない。小葉5～7枚。花は濃紅色で花弁数約30枚ぐらい。開花後は平開咲きとなる。四季咲性は強く名前の通り大株となり強健種。



*R. c. cv. Major*

*R. c. cv. MissLow*

枝葉は全体に小型でやや弱々しい。一重5弁の花で洋紅色。開き始めは幅広弁だが、最後はねじれて反りかえり細弁となる。鉢植とし花容の変化が楽しめる。

*R. c. cv. OldBlush*

高さ1 mぐらいの株立となりよくまとまった樹形となる。小葉は5枚で先頭葉は大きく、基部の葉は小さい。中脈を軸として中折れになり易い。花弁数約30枚で花径6～8 cmで薄ピンク色の花が咲いた。強光にあたると弁がやや白ぼくなる欠点がある。その他下記の原因を現在植栽している。*R. hugonis* Hemsl., *R. laevigata* Michaux, *R. moyesii*, Hemsl. et Wilson, *R. sericea* var. *omeiensis* Row.,

本記録を書くにあたり以下の文献を参考にした。ばら花譜 鈴木省三・柳山泰一著。Roses G. Krüssman 著。MODERN ROSES No. 8。The Dictionary of ROSES S. Millar Gault & M. Patrick 著。

バラの導入一覧表

学名	和名	導入先	導入日	導入形態
<i>R. banksiae</i>	モッコウバラ	広島バラ会会員	'78年2月	株分譲
<i>R. b. var. lutea</i>	キモッコウバラ	"	"	"
<i>R. b. v. normalis</i>		中国雲南省石林	'79年10月	穂木採取
<i>R. bracteata</i>	カカヤンバラ	中国杭州植物園	'80年2月	種子導入
<i>R. chinensis v. mutabilis</i>		京成バラ園	'80年1月	穂木分譲
<i>R. c. v. semperflorens</i>		"	"	"
<i>R. c. v. virdiflora</i>	セイカコウシンバラ	広島バラ会会員	'78年2月	株分譲
<i>R. c. cv. Major</i>		京成バラ園	'80年1月	穂木分譲
<i>R. c. cv. MissLow</i>		"	"	"
<i>R. c. cv. OldBlush</i>		"	"	"